

ザンビア募金☆進捗報告

瀬戸口 千佳（業務調整員）

新たに3件の支援が決定！！

出張健診用の小屋建設（ンジョブ村）【予算：約13万円】

TICOが活動しているモンボシ地域では各地域で毎月1回の出張健診が行われています（2ページ参照）。他の村では学校で実施されることが多いのですが、ンジョブ村には学校がないため、丸太を組んだ簡単な小屋で健診が行われていました。ただ年月が経つにつれ風化し、今年からは妊婦健診用のスペースが使用不可能な状態に。現在では妊婦さんは草むらに隠れるようにして、地べたに寝転がって健診を受けています。

実はンジョブ村では3年前から、レンガ造りの小屋を建設するために郡保健局へ資材の予算を陳情してきましたが、待てど暮らせど梨のつぶて。それでも村の人たちは少しずつレンガを焼いて準備してきました。



村の人たちが作った小屋
（というか木の枠・・・）



建設を担うンジョブ村住民保健
委員会のメンバーたち



ンジョブ村での出張健診の様子（木枠は右側）

カリミナ小学校 教員用住宅の建設（資材の一部支援） （カリミナ村）【予算：約9万円】

1年生から7年生まで計317名が通うカリミナ小学校には、5人の有資格教員がいますが、そのうちきちんとした「家」に住んでいるのは2人のみ。残りの3人は教室や狭い事務室に住んでいるという状況で、地域の人たちが自弁で教員たちのための住宅を建設していたのですが、2軒目に入った時点で行き詰まり、支援への要請が上がってきました。

とはいえ、カリミナ小学校は公立校として認定されており、他のコミュニティスクールと呼ばれる学校に比べれば恵まれていると言えます。よって本支援は全額支援ではなく、資材の一部を支援することで合意しました。



住民たちが自前で建てた教員用
住宅1軒目

マサカ・コミュニティスクール 教員用住宅の建設（マサカ村）【予算：約7万5千円】

マサカ・コミュニティスクールは、左下のカリミナ小学校とは違って地域の有志が運営しています。現在、1名の有資格教員と3名の地域の有志によって1年生から7年生までを教えています、教育の質向上のため、追加での有資格教員派遣を希望しています。

写真の家屋はPTAが中心となって、2012年1月から建設が始まったのですが、あと1歩のところで資金が切れ、1年以上野ざらし状態でした。



あと一歩のところで止まったまま
の建設



PTAのメンバー

橋の建設（NPO法人道普請人/京都大学との連携）【予算：約16万5千円※】

本事業は道普請人理事長で京都大学大学院工学部研究科教授である木村先生の指導の下、院生である芝村裕人さんが担当。8月に現地入りされ、村の人たちと建設現場の横でキャンプ生活をしながら建設を進めています。

※TICO負担分として。本事業は、道普請人、TICO、そして住民有志による建設委員会が、事前に合意された分担に基づき、共同出資して行われています。



建設作業を住民に指示している芝村さん（左）と、最初の1か月間助っ人で来てくださった大東さん（右）



橋台（マケニ村）

橋台（ルビア村）

橋脚

橋全体のイメージ

「ザンビア募金（住民提案型支援）」として頂戴した寄付は以上の事業支援で全額使用させていただきましたが、地域からの新規要望受け付けは引き続き実施します。変わらぬご支援をお願いいたします。「ザンビア」と指定の上、ご寄付ください。